

今月の山柳

熱帯夜

鈴虫の声

子守歌



眠られぬ熱帯夜、鈴を振るようにリンリンと心地よい音を奏でてくれる鈴虫。それは鈴虫達の求愛の歌であるが、その涼しげな泣き声に心もリラックスし、何時しか眠りにつく。

恋の歌

八女川柳会 安達昇

街かど gallery



八女市川犬 丸林 憲弘

退職後、じっくり絵を描いてみたいと、油絵の通信講座や絵手紙教室を受講しましたが、長続きはせず終わっていました。そんな折、平成十九年度県の「高齢者はつらつ活動」事業のお世話をする事になり、和気あいあい、自分なりのペースで学習を進められる姿や素晴らしい作品に接し、自分もぜひ参加したいと強く感じました。

担当を外れた後、早速、中島先生の「はつらつ水墨画」を申込みました。

四年目を迎えても、墨一色で描くことの難しさ、墨の濃淡、にじみ、ぼかし、かすれ等表現の奥深さに戸惑うばかりです。

しかし、水墨画に出会い、描く喜び、楽しみを持って、より豊かな人生を送れることに感謝しています。



大正生まれの歌姫ふたり

立花町にある「総合保健福祉センター・かがやき」は今年開設15周年を迎えました。施設では、保健・福祉に関する催し、行事が行われておりますが、目玉は、休憩・入浴・食事などが格安で、どなたでも利用でき、毎日大勢の来館者で賑わっています。大広間では毎週(火・木・土)3回カラオケの時間が設けてあり、昼すぎから4時まで、自慢のノドを披露しあい、拍手と応援の掛け声が飛び交いに盛り上がっています。その中で大正生まれの、西村さん、大神さんの二人をご紹介します。

二人ともバイク、自転車で通っておられるのには驚きです。施設内では知人、友人のよもやま話やお互いの健康を気遣う話など、穏やかで、和やかな一日、家事の事も忘れて楽しく過ごされます。オシャレをする事も忘れず、一生懸命歌っておられるときの姿は、ことのほか若く見えます。



大神トヨカさん



西村静江さん

こんな過ごし方をされるのが、心身ともにご自身の健康維持につながっているのかも知れません。皆さんも「かがやき」にお出になり一緒に楽しいひとときを過ごしませんか。(立花町) 浜砂 國男

矢部川源流・杣の里の四季 ③4

マタタビ(木天蓼)[マタタビ科]

マタタビはマタタビ科の落葉蔓性木本である。別名夏梅ともいう。因みにキウイフルーツもマタタビ科である。矢部村では村内全域、杣の里溪流公園の上あたりまであらゆる所で観察できる。開花は6月～7月に白い花を咲かせる。雌雄異株で雄株にはおしべだけを持つ雄花(左下)、雌株にはおしべとめしべを持った両性花(右上)、花弁のないがくとめしべだけの雌花(上左)を着ける。

「ネコにマタタビ」というようにネコ科の動物はマタタビ特有の臭気に恍惚を感じる。蕾にタマバエ科の昆虫が寄生して虫こぶになった実は、木天蓼という生薬で、冷え性、神経痛、リュウマチなどに効果があるとされる。(黒木町)

松尾 重根



クラッシー文芸

■上陽町 陽泉俳句会

人を恋ふしぐさ巧みな七変化 吉泉 守峰
現役の渋の輝き茶摘み籠 城後 正子
雨の音雨だれの音梅雨に 荒川ミヤ子
入る 止まらむとして風に乗る 糸とんぼ 中村 境子
転勤の決まりし夜半やほとぎす 大坪 延子
鳥賊釣りの墨かけさせぬ 釣師かな 柴田 啓一
卵の花とカラーの白さ待つことの 倉ノ下和代
ラムネ水昭和は途切れとぎれなり 大坪 清香

■八女紫苑句会

梅雨晴間一句もがなの山路かな 松延みさと
蝶の舞ふかに一片の落花かな 井上トシ子
螢狩り見知らぬ人と闇に待つ 牛島 景子
双手もてたぶさ掴みに草引きぬ 堤 多鶴子
水たたえ田植待つ田の広さかな 田中サトリ
撓わなる実梅古木の力かな 中川原篤子
門川の魚影に揺らぐ花藻かな 松崎 伸子
お早うと背にあいさつの白い靴 野崎 通世

かがやきのカラオケ愛好者のスーパースター中島梧桐さんから竹トンボ、水笛を頂きました。中島さんは大正7年生まれ96才、まだまだお元気です。竹トンボはよく飛ばし、水笛はきれいな音が出ます。中島じいちゃんの元氣も分けてもらえそうです。竹トンボと水笛各一個をセットで20名へプレゼント。希望の方は(株)東兄弟宛ハガキで応募下さい。希望者多数の時は抽選になります。弊社迄取りにこられる方に限ります。締め切り8月10日。

